



SWIFT Japan News

December 2010

- Sibos 2010 アムステルダム報告
- スイフト全体戦略及びスイフトビジネスフォーラムについて
- スイフト・ジャパン設立 30 周年を迎えて
- スイフト インターフェース アップデート
- Accord リフレッシュトレーニングについて
- 新規接続のご紹介
- SMPG 活動報告
- PMPG 活動報告
- Security Officer の役割と責任
- SWIFT 講習会
- SWIFT コンサルティング・サービスのご紹介

Sibos 2010 アムステルダム報告

1. 全体報告

今年の Sibos は、10月25日から29日の5日間にわたってオランダのアムステルダムを舞台に開催されました。数多くのパネルディスカッションやセッションおよび209の企業・組織が出展した展示会で構成された Sibos アムステルダムには、世界各国から約9,000人が参加し、過去最多の参加となりました。日本からは約190名の方にご参加いただきました。

第33回目の開催となる今回の Sibos では、「Regulation: 規制」、「Rebuilding Trust: 信頼回復」、そして「Recovery: 経済回復」の3つのテーマを軸にプログラムが構成されました。リーマン・ショックから2年を経て回復の兆しを見せる経済環境において、今後どのように金融界として発展していくべきかが主な論点となりました。また、新興国の金融情勢に関するセッションも多数開催されました。

26日にプレナリーセッションが開催され、SWIFT 会長のヤワー・シャーと CEO のラザロ・カンポスが講演を行いました。会長のヤワー・シャーは、SWIFT の全社的な経費削減プログラム「Lean@SWIFT」が順調に進んでいることを報告し、メッセージ通信料の平均20%削減に加え、新たに2010年中に通信料の15%をリベートして SWIFT コミュニティーに還元する旨を明らかにしました。また、CEO のラザロ・カンポスは、相互運用性の改善や TCO の削減を更に継続し、SWIFT の中期計画「SWIFT2015」を実行することで、SWIFT のコア業務はさらに一層深化すると述べました。

日本からは5名の皆様にパネラーやスピーカーとしてセッションにご参加いただきました。三井住友銀行の林田伸一執行役員が26日の「アジアにおける持続可能な回復」をテーマとしたセッションに、三菱東京 UFJ 銀行の中野昌治常務執行役員が27日の「金融危機後のリスク管理：何が変わったか？」をテーマとしたセッションにご参加いただきました。また、日本銀行金融研究所の山田隆人企画役員が「APAC による ISO 20022 の採用」をテーマとしたスタンダード関

連セッションに、さらに、証券保管振替機構の西向一浩部長が「法人活動の転換：XBRL は解決策となるか？」のセッションに、そして三菱東京 UFJ 銀行の釜井大介調査役が「オープンアカウント市場における実務」をテーマとしたセッションにご参加いただきました。

2. Sibos2010で議論されたビッグ・イシュー

「Regulation: 規制」、「Rebuilding Trust: 信頼回復」、「Recovery: 経済回復」をテーマに掲げた今年の Sibos では、世界不況からどう立ち直るかを議論するセッションが連日展開されました。その中から、本年の最重要テーマを取り上げて議論する「Big Issue Debate」について概要をご報告します。

Regulation - Regulatory reform and the future of banking

初日の25日には「規制 - 規制改革と銀行の未来」と題し、Financial Times のチーフ経済コメンテーターがモデレーターを務め、銀行トップや大学教授の方々に討論していただきました。グローバル規模の金融危機に初めて直面した銀行の未来について、保護主義的な規制、G20 を通じた規制強化、バーゼル3の存在などを軸に規制に対する対応策や銀行が向かうべき方向性についてあらゆる側面から議論が展開されました。また、今回の経済危機は、「大衆受けする経済政策 (populist economic policy)」が原因だという主張もなされ、銀行は早急に自らのコア・コンピタンスの発揮できる事業領域に注力し、顧客志向の姿勢を発揮すべきという意見もありました。

Rebuilding trust: Our industry's response to restoring confidence

26日には「信頼の再構築：信頼回復に向けた、金融業界からの回答」をテーマに、CNBC のキャスターをモデレーターに迎え、銀行や投資信託会社のエグゼクティブに討論していただきました。金融業界の信頼回復には、顧客を重視し、短期的な利益を得るのではなく、より長期的な視点で進めていくべきだという意見が交わされました。また、真の意

味で責任が問われる時代にあって、金融業界は業界内だけではなく、規制当局に加え、ひいては社会に対して継続的かつ協調的な努力を続けていくことが、信頼回復の大切なステップになるとの意見もありました。

Recovery - Transaction banking one year on

27日には「経済回復 - 銀行取引の1年」と題し、モデレーターにパークレイズ・キャピタル副会長を招き、国際間取引に関わる各銀行の代表者に討論していただきました。冒頭から銀行の自己資本の質と量の見直しをはかる規制強化策「パーゼル3」を軸に議論が展開され、過度な規制が銀行の柔軟性を奪い、世界不況から回復する際の大きな足かせになる可能性があるとの懸念が示されました。また、世界不況の中にあって、銀行は課題が山積している反面、成長機会を模索し、ビジネスを拡大する努力を継続的に行っていく必要があるという意見もみられました。

3. 世界を牽引するアジア

Sibos2009において、アジアは金融危機からいち早く脱するとの予想がなされていました。実際、2010年の経済指標をみても、アジアが世界の経済成長の原動力になりえることを示しています。今年のSibosでは、そうしたアジア関連のセッションも連日開催され、注目度の高い中国やインドを始め、アジア全体をテーマにした議論も多くなされました。その中から、アジアの経済成長に関して討論されたセッションの概要をご報告します。

A sustainable recovery in Asia

26日に「アジアにおける持続可能な回復」と題し、スイフト香港のPatrick Decourcyがモデレーターを務め、日本をはじめアジア各国の銀行の代表に金融危機後のアジアの経済成長に関して討論いただきました。ディスカッションの中で、アジアの経済回復には、金融インフラを充実させ、規制に対する足並みをそろえ、さらに通貨不安に対処していくことが必要だと意見が交わされました。三井住友銀行の林田伸一執行役員は、アジア圏内では主に中間財貿易が盛んであり、アジアはアメリカやヨーロッパとの最終製品貿易に依存するのではなく、アジア圏内での貿易需要の重要性に目を向ける必要があると主張されました。また、アジア各国がより連携を深め、自らの運命をアジア自身でコントロールすべきという意見も見られました。



三井住友銀行
林田伸一 執行役員

Managing risk after the crisis: What has changed?

27日に「金融危機後のリスク管理：何が変わったか？」をテーマに、TMIの編集ディレクターをモデレーターに迎え、銀行に加えP&Gなど企業側の代表も参加し、金融危機後の企業と銀行との関係やリスク管理の変化について議論が展開されました。企業側からは金融危機時の資金繰り対応などについて意見が交わされ、銀行側からは、三菱東京UFJ銀行の中野昌治常務執行役員が、流動性を高いレベルで維持し、新興市場も含め企業顧客に対して良好なバランスシートを提示することで継続的な融資を実現した同行の対応について言及されました。また、中小企業への融資について議論が及んだ際、中野常務は、英国と同様に規制が強化された日本の金融庁について、新たに示された要件を受け入れ、協調する姿勢を示されました。



三菱東京UFJ銀行
中野昌治 常務執行役員

今回のSibosはカナダ・トロントで2011年9月19日から23日にかけて開催されます。さらに、2012年にはSibos大阪（日本でのSibos初開催）が10月29日から11月2日にかけて開催されます。皆様方の多数のご参加をお待ち申し上げます。

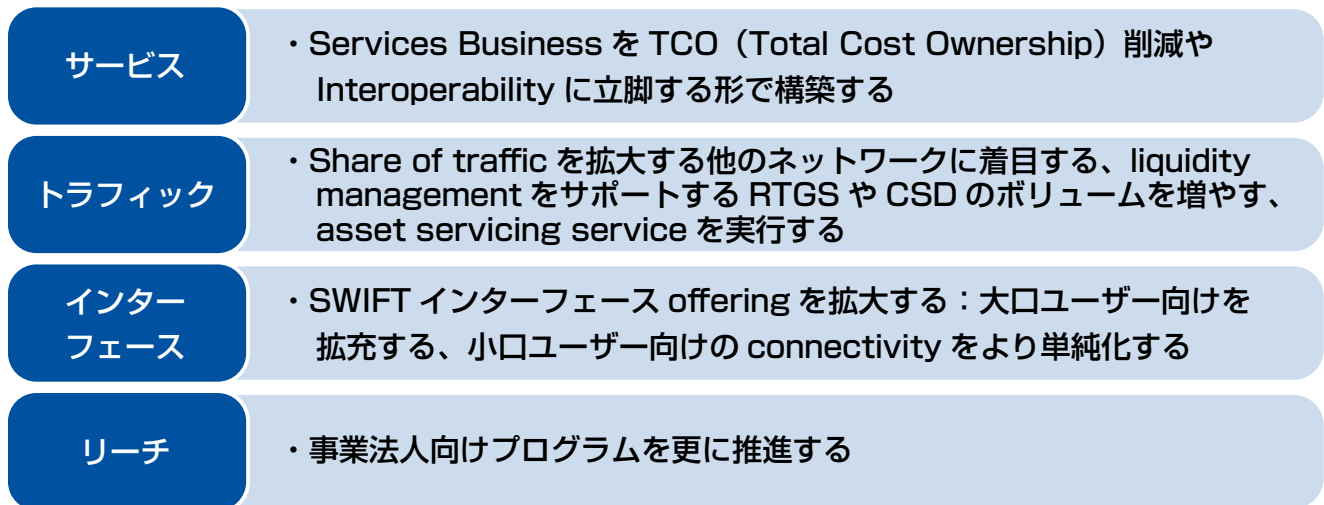
スイフト全体戦略及びスイフトビジネスフォーラムについて

2-1. スイフトの中期戦略 (“SWIFT2015”)

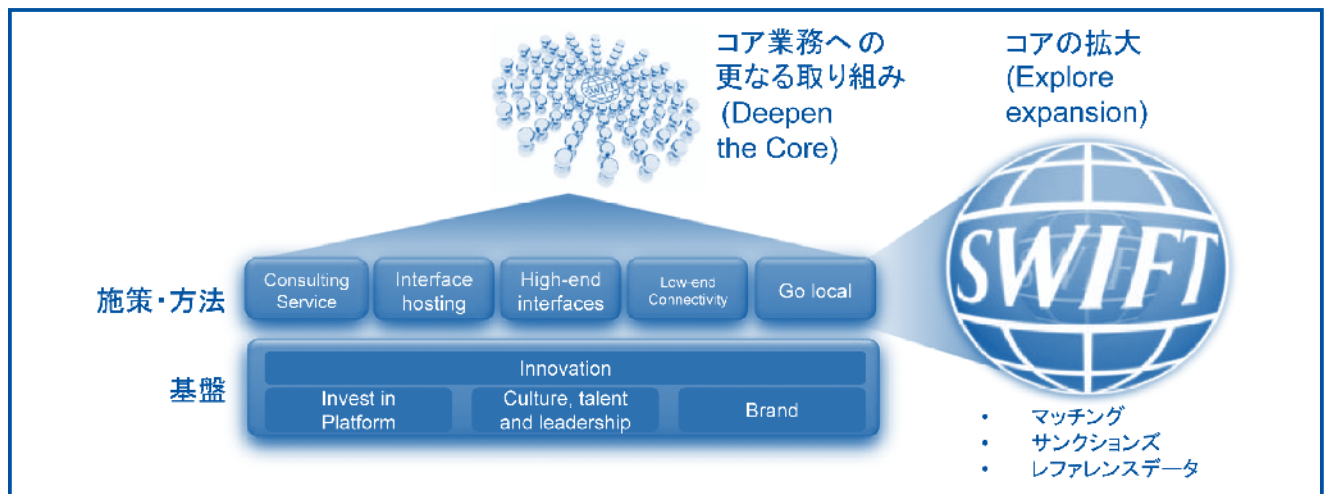
戦略立案にあたって行った分析によって、SWIFT がこれまで「コア業務」として注力してきた分野、具体的に言いますと、Corresponding Banking、RTGS（大口決済）、証券決済（Settlement and Reconciliation：S&R）などの分野において、SWIFT には非常に大きな成長余地が残されていることが判明しました。

このような認識に基づき、コア業務への更なる取り組み（“Deepen the Core”）を行い、注意深くコアを拡大していく（“Selectively explore expansion”）ことが、SWIFT2015 の骨子となっております。

参考資料：Deepen the Core の概要



参考資料：SWIFT2015 全体像のイメージ



2-2. スイフトのメッセージ料金引下げ

新価格体系が本年9月の理事会にて承認されました。この新価格は、現在の価格レベルを約20%引き下げるものであり、金額に直すとグローバルコミュニティ全体で約70百万EURのコスト節減となる見込みです。この価格引下げは、SWIFTの価格に関する原則（以下の点）に沿った引下げです。

- 市場シェアを拡大し、取引量の拡大を促進する
- 大口ユーザーの重要性を認識する
- 協同組合の精神に則って、全ユーザーのメリットに寄与する
- 市場の変化と競争に対応する
- 公平且つ透明性を確保する

更に、このような約20%の価格引下げに加えて、2010年のメッセージ利用量に応じた15%のリベート（ユーザーへの払い戻し）が発表されました。このリベートの総額は、グローバルコミュニティ全体で約52 million EURとなる予定です。

2-3. Lean@SWIFT 報告

2009年のSWIFT JAPAN NEWSでも「スイフトにおけるコストコントロール」という標題でご報告しておりますが、SWIFTは、「Lean @ SWIFT」というビジネスプロセスおよびコスト最適化プログラムを展開しております。本プログラムは、グローバルベースで実施され、2011年までに9千万ユーロのコスト削減を達成することを目標としています。

Lean @ SWIFTプログラムは地域・部門ごとに次々と実施され、2011年に完了します。アジア太平洋地域では、今年5月より厳格にプログラムを実施して参りました結果、構造的なコスト削減を実現しつつ、アジア全体での組織体制を顧客セグメントおよび市場開発によりフォーカスされるよう再構築しました。また同時に、より効率的なビジネスプロセスを導入しました。これらふたつの要素が組み合わさることにより、以前よりアジアにおける社員数は少なくなりましたが、SWIFTに期待されるサービスレベルを維持し、そしてさらに改善していくことができると確信しております。

SWIFTの主要な顧客である金融機関および市場インフラにリレーションシップマネジメントを集中させるため、キー・アカウント・マネージャーを地理的要素に基づいて組織した3つのチームに配しました。SWIFTジャパンの代表である渡部吉昭は、従来通り東京をベースに日本チームを率いて参ります。中国および韓国は、北アジアチームを率いる香港のMichael Cheung、アジア地域におけるその他の主要アカウントは南アジアチームを率いるシンガポールのFranck Deppraetereが責任者となります。また、アジア地域のその他1,200社以上のコア・アカウント（日本を含む）およびパートナー、アジアのSWIFTコミュニティとのコミュニケーションチャンネルは香港のBeth Smitsが率いるチャンネル・チームが担当します。

香港のPatrick Decourcyは、市場・業界・プロダクトの専門家により構成されている新たなマーケティング・チームを率いており、他の営業チームと密接に連携してユーザーの皆様をサポートしてまいります。シドニーのZelda Anthonyは、今回新たに新規顧客開拓チームの責任者となり、アジア地域における新規SWIFTユーザー（日本を含む）を獲得する任務を負います。香港のPatrick Yehが率いるコンサルティング・トレーニングチームは、アジア地域のユーザーに専門的なコンサルティング・サービスとトレーニング・プログラムを提供します。人事および財務・総務は、引き続き香港のPaulie LamとCaroline Haedensがそれぞれ担当責任者となります。またSWIFTサポート部門に関しては、香港のOliver Manが暫定的に責任者となります。

2-4. スイフトビジネスフォーラム東京

(詳細は <http://www.swift.com/jp/> に掲載)

スイフト・ジャパンは、2010年6月25日、「アジアによりよい金融インフラを築く」をテーマに、今年で4回目となるスイフトビジネスフォーラムを、ベルサール六本木で開催いたしました。来場者数は、410名を超え、お陰様をもちまして盛況に終わりました。

主なスピーチは、以下の通りです。

- ・ 野村資本市場研究所・淵田康之執行役：「グローバルな新金融秩序と日本の金融資本市場」
- ・ ステート・ストリート南アフリカ・アンドリュウ・ウィリスマネジング・ディレクター：「アウトソーシング - 資産運用業務のオペレーション最適化・効率化」
- ・ 三菱東京UFJ銀行・森剛敏決済事業部決済管理グループ次長および三井住友銀行・宇都信哉証券ファイナンス営業部上席部長代理：「証券オペレーションにおけるBPOへの潮流」
- ・ 三井住友銀行・真鍋俊洋EC事業部グローバルCMS室長、三菱東京UFJ銀行・村上紀年IT事業部次長およびみずほコーポレート銀行・近本有希e-ビジネス営業部GCMS推進室室長：「邦銀によるグローバルCMS戦略」
- ・ 証券保管振替機構・海野俊一郎ポストトレード・サービス部長：「ISO20022/SWIFTの導入に向けたプロジェクトの経過報告」

また、山田隆人氏（日本銀行金融研究所・情報技術研究センター企画役）および石嶋和志氏（三菱東京UFJ銀行・決済事業部決済管理グループ調査役）による「金融業界における標準化の意義」のディスカッションでは、多様化する決済の現状やそれを支える標準化の意義についてご意見をいただきました。

さらに、小林高明氏（金融庁総務企画局企画課決済システム強化推進室企画官）、江藤俊弘氏（NTTドコモフロンティアサービス部金融・コマース戦略担当部長）、松谷徹氏（Paypalシニアビジネスディベロップメントマネージャー）に加えて、麗澤大学・中島真志経済学部教授にモデレーターをお願いしたパネルディスカッションでは、「資金決済法：その影響と新たなビジネスモデル」をテーマに、今年4月に内閣府令で詳細が決定した資金決済法をめぐる活発な議論をいただきました。また、スイフト日本代表理事に新たにご就任いただいた三菱東京UFJ銀行・石垣夢作決済事業部長からSWIFT理事会の報告をいただきました。

なお、スイフトが社会貢献活動の一環として参加した世界自然保護基金（World Wide Fund of Nature）主催の「Earth Hour（アースアワー）」活動についても報告をさせていただきました。

今回のビジネスフォーラムは、以下のパートナー企業様にご協賛いただきました。改めて御礼申し上げます。（順不同）

● Bloomberg ● シティネットワークス株式会社 ● 新日鉄ソリューションズ株式会社 ● NTTデータジェトロニクス株式会社 ● 日本プログレス株式会社 ● 日本セーフネット株式会社 ● 住商情報システム株式会社 ● スマートストリーム ● ウィプロ・テクノロジー

スイフト・ジャパン設立 30 周年を迎えて

スイフト・ジャパンは、1980年5月7日に設立され、以来、日本の金融業界と共に歴史を歩み続け、今年設立30周年を迎えることとなりました。11月15日には皆様方からのこれまでのご厚情に感謝する記念レセプションを開催いたしました。当日は240名もの皆様方にご参加をいただき、誠にありがとうございました。

過去30年間において、世界的な出来事や決済分野における革新的な発展など、スイフトの歩みを簡単に振り返ります。

スイフト・ジャパンの設立は、1974年に全国銀行協会に「スイフト研究会」が設置されたことに遡ります。翌1975年にはスイフトの活動に関する海外調査団が派遣され、1976年には42邦銀から出資金をいただくことが決定しました。その後、1979年のスイフト・KDD会談を経て、1980年にスイフト・ジャパン株式会社が設立されることとなりました。そして、翌1981年3月9日に31の加盟銀行と共にスイフトは正式に稼働をスタート、初年度の通信量は72万件を記録しました。以来、日本からのメッセージ数は、毎年平均21%の割合で成長を続け、今日に至っています。

さて、スイフトが稼働を開始した翌年の1982年、スイフトの年次総会で日本代表理事が承認されました。1986年にはスイフト理事会が国内で初めて京都を舞台に開催され、日本としての意見を積極的にスイフトへ提案・反映する準備が整いました。

また、1987年10月19日、香港での株価暴落を発端とした世界同時株安（通称：ブラック・マンデー）が発生。日経平均株価も15%の下落を記録する事態が発生しました。しかし、翌1988年に日本は急激な回復を遂げ、日本からのメッセージ数は、この年初めて1,000万件を突破、1989年には日経平均が史上最高値を記録することとなりました。さらに、1990年にはスイフトメッセージのマイルストーンである「SWIFT II」の導入を開始。1994年には、日本からのメッセージ数が2,000万件を超えるなど順調な進展を見せました。

ところが、1995年に阪神淡路大震災が起こるなど社会的な混乱もあり、また、1997年にはタイバートの暴落を発端としたアジア通貨危機が発生するなど、日本は急減な円安に見舞われました。しかし、そういった社会背景においても、スイフトは同年IPベースのネットワークへ移行することを発表、翌1998年には日本でスイフト加盟メンバー数が140に達しております。

そして、2001年9月11日、米同時多発テロが発生しました。その影響で毎年実施してきたグローバルフォーラム「Sibos」は中止。金融業界のみならず、世界的に未曾有の混乱を招く事態となりました。

しかし、スイフト・ジャパンは躍進を続け、翌2002年に日本のお客様からのご質問やご要望にお応えするサポート・センターが東京に設置され、同年日本からのメッセージ数は5,000万件を超えました。2003年には国連加盟国を超える世界200ヶ国がスイフトと接続しました。さらに、2004年には現在の主力メッセージサービスであるSWIFTNet FINへの移行が完了し、2007年には日本からのメッセージ数が1億件の大台を突破いたしました。加えて、同年スイフトの日本語ホームページがスタート、以来、情報インフラの充実に努めております。

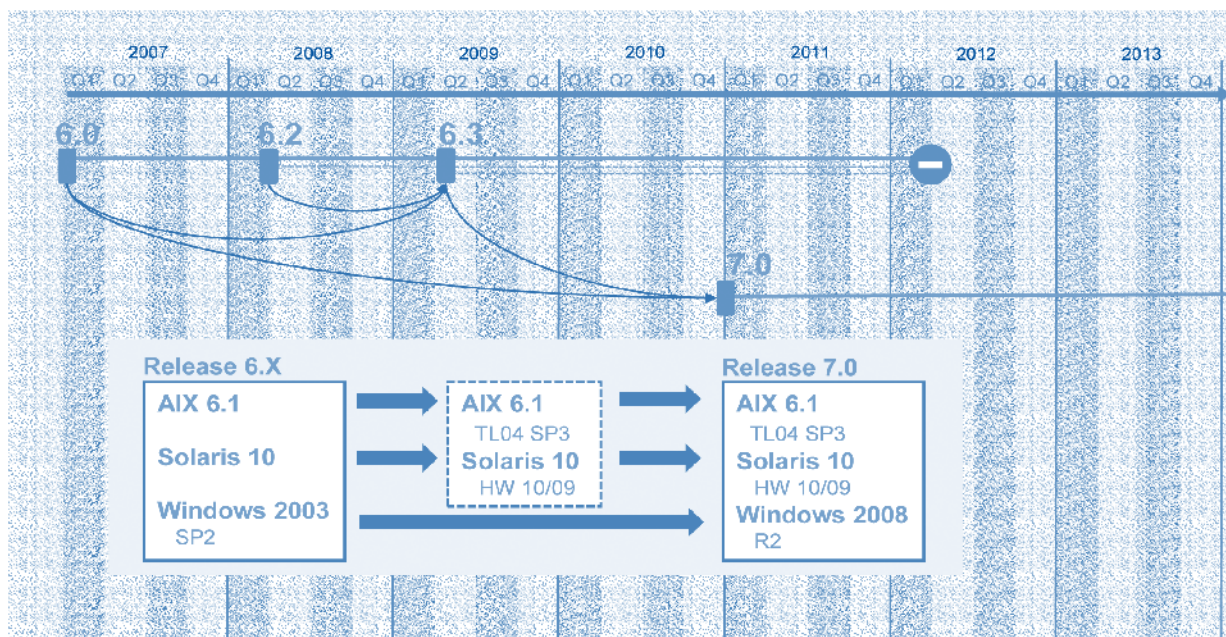
2008年、世界的な金融危機の引き金になったリーマン・ブラザーズの破綻（いわゆるリーマン・ショック）のニュースが世界を駆け巡りました。偶然のめぐり合わせではありますが、このニュース発表は、同年のSibos初日と重なっていました。アメリカ経済に対する不安が広がり、世界的な金融危機へと連鎖し、日経平均株価も大暴落の憂き目を見ることとなりました。しかし、スイフトは、2009年には新しいメッセージの枠組みであるSWIFTNet Phase2への移行を完了させ、2010年に晴れてスイフト・ジャパンは設立30周年を迎えることとなりました。

2012年には、いよいよSibosがわが国で初めて大阪で開催されます。スイフトは、よりよいメッセージングサービスを提供することで日本の金融業界の発展に貢献し続ける所存です。今後とも、引き続き皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

■■■ スイフト インターフェース アップデート ■■■

SWIFT は SWIFTNet の新しいバージョンとして、SWIFTNet 7.0 のリリースを予定しております。それに合わせて、各 Alliance の製品も 7.0 バージョンに移行してまいります。ここでは SWIFTNet 7.0 の今後のリリース・スケジュールとその新機能につきまして簡単にご紹介いたします。合わせて、SWIFTNet 7.0 への移行に伴う Alliance Gateway および、Alliance Access のご同時ご利用端末ライセンス形態の変更についてお知らせ致します。

1. Alliance インターフェースの今後のリリース・スケジュール



上記の通り、Alliance Access/Entry 7.0 の現時点での皆様方へのリリースは、2010年12月を予定しており、各ユーザー様への送付は2011年1月予定となっております。この7.0のバージョンは必須バージョンとなっておりますので、リリース後15ヶ月以内にバージョンアップを終了頂く必要がございます。現時点でのその期日は、2012年3月となっております。

またこの7.0バージョンを導入頂くシステム・スペックですが、既存の6.xバージョンでご利用のシステムでご対応いただけるかどうかをご検討ください。特にWindowsバージョンをご利用の方は64bitマシンが必要となりますので、ご確認ください。その目安として弊社Webサイト(www.swift.comのHome > Products & services > Introducing SWIFTNet 7.0 and Alliance 7.0 > Details)にある“Hardware Requirements for Release 7.0”をご参照ください。

2. SWIFTNet 7.0 の新機能

SWIFTNet 7.0 には様々な機能が含まれています。主な機能としましては、以下の通りとなります。

- 既存のFIN でご利用のRMA がInterAct/FileAct でもご利用いただけます
- 既存のFIN でご利用のメッセージ・コピー機能が、InterAct /FileAct でもご利用いただけます
- Web ベースの端末機能が強化されます (Alliance Access、PKI の管理機能の追加等)
- PKI の管理機能が強化されます (削除等の機能追加 - Web-Platform 経由でのご利用)
- Database Recovery の機能が強化されます
- Web-Platform を利用してのモニタリングのご利用が可能となります
- Alliance Access 上でのコマンド・ラインのご利用が可能となります
- Alliance Access からのFileActのご利用が容易となります
- Alliance Access システム構成ファイルのExport/Import 機能がご利用可能となります

その他の詳細な機能照会につきましては、弊社Webサイト (www.swift.comにて検索) にございます“SWIFTNet 7.0 Release Overview”“Alliance 7.0 Release Overview” および、“Alliance Access/Entry 7.0 Functional Overview”をご参照ください。

3. Alliance Gateway のライセンス変更に関しまして

SWIFTNet 7.0 のリリースに伴い、Alliance Gateway 7.0 のライセンス形態および価格に変更が発生いたします。大きな変更点としましては、以下の通りとなります。

- Alliance Starter Set /Alliance Gateway のライセンスがすべて Alliance Gateway に統一されます
- 現在の Agent/Adaptor (FTA, TDA) および、HOST Adaptor (RAHA, MQHA 等) を抱合したライセンス形態から、それぞれを個別にオーダーする形態に変わります

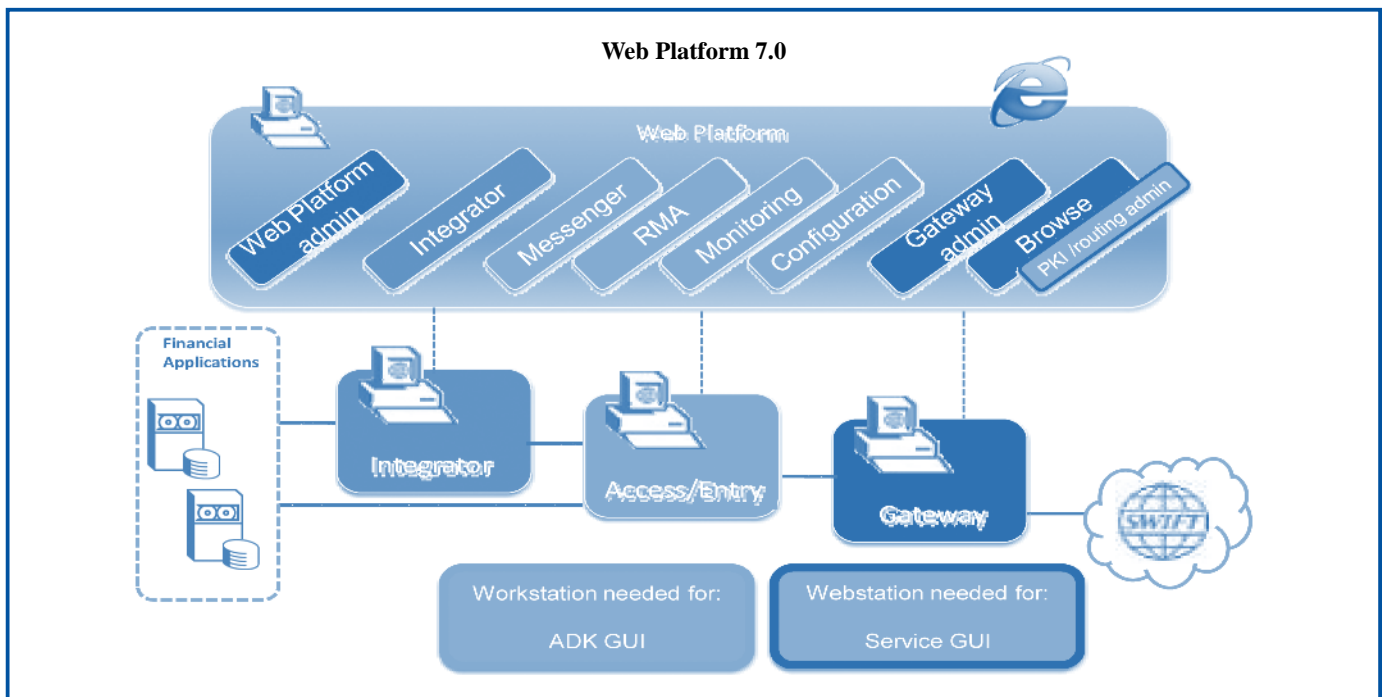
既存のAlliance Starter Setユーザーの方々には、Alliance Gateway Band “-2” が送付されます。既存のシステム構成（同一筐体でのSNL/SAG, SAA をご利用）の場合には、そのまま Alliance Gateway “-2” がご利用頂けます。費用的（年間保守費用）にも、現在の Alliance Starter Set ユーザーの方々には変更はございません。

現在のAlliance Gatewayユーザーの方々には、そのままのBandライセンスを送付いたします。年間の保守費用にはそれぞれの構成によって変更が生じる可能性がございます。詳細に関しましては、弊社担当者にご連絡ください。

4. SWIFT 端末の変更に関しまして

4.1 端末機能変更に関して

SWIFTNet のリリースに伴い、現在 Alliance Workstation でのみ可能な機能（Alliance Access のシステム構成設定、ユーザー設定）が、Web ベースでご利用頂く Alliance Web-Platform でも可能となります。また、Web-Platform は、以下の通り従来 Alliance Webstation でご利用頂いていた Alliance Gateway の管理端末、PKI の管理端末、また Alliance Integrator の管理端末としてもご利用可能となります。



SWIFTNet 7.0では、Alliance Workstation 7.0, Alliance Web-Platform 7.0 とともにリリース予定となっており、各ユーザーの方々には両方のアプリケーションが送付されます。

4.2 端末ライセンスの変更に関して

これまでの Alliance Workstation における同時ご利用可能ライセンスが、SWIFTNet 7.0 においては Alliance Web-Platform にも適用されることとなりました。これは、Alliance Workstation, または Alliance Web-Platform からのアクセスを1セッションとし、そのセッション数が現在の Alliance Access への同時ご利用可能範囲内であれば、どちらからのご利用でも可能となっております。また、今後のセッション数の増加へもご対応できるアップグレードライセンスもございます。

追加の同時ご利用ライセンスをすでにご利用のユーザーの方々には、その年間保守費用に変更がございます。詳細に関しましては弊社担当者にご連絡ください。

Accord リフレッシュトレーニングについて

Accord は広くお使いいただいているコンフォメーションマッチングエンジンです。SWIFT では Accord のトレーニングをテ일러メイドでアレンジできるようになりました。すべてのトレーニングはハンズオンで専任のインストラクターが個別ユーザー様のサイトで行います。

コース内容

- Accord を現行業務にカスタマイズする
- マッチングルールを作成してマッチングレートを向上させる
- 例外処理に費やす時間を縮減する
- 本当に処理が必要なものに注力して業務効率性を上げる



SWIFTNet Accord

本トレーニングは毎年リフレッシュできるスキームもございます。詳細は www.swift.com/training をご覧ください。

Metal トレードコンフォメーションマッチングの開始について

Accord はトレジャリーメッセージに加えて 2011 年よりメタルトレード MT600 のコンフォメーションマッチングも開始します。現在 MT600 をご利用されているユーザー様は Accord でのマッチングが自動的に始まりますが、マッチングフィーは 2011 年 1 月まで無料となります。現在 MT600 をお使いで Accord でマッチングをご利用されたくない場合は、Accord GUI から MT600 を除く処理をお願いいたします。除外方法に関しましてはこちらをご覧ください。TIP 3000489

新 規 接 続 の ご 紹 介

従来 SWIFT のユーザーの中心は、銀行、証券会社、運用会社となっております。近年、一般事業法人、保険会社などのユーザーも増加しています。SWIFT が提供するサービスの多様化という背景がありますが、業務規模、業務分野に合わせた利用方法の選択肢が増えていることもあげられます。

SWIFT を利用する場合、ユーザーに必用なハードウェア、ソフトウェアをご準備いただき SWIFT に接続していただく直接利用と、ハードウェア、ソフトウェアを第三者ベンダーが保持し、それに対し複数のユーザーがアクセスする間接利用がございます。後者のサービスを SWIFT では、サービス・ビューローと呼んでいます。

サービスビューローの利用は欧米においても、幅広い選択が広がっています。日本においても、間接接続のサービス提供は従来からありましたが、近年選択が広がっています。利用規模、利用業務に応じたサービスが展開中で、従来よりもお手軽に利用できるサービスが増えてまいりました。

直接利用のために必要なアプリケーション

SWIFT を利用するにあたり必要なソフトウェア及びセキュリティ関連等の諸費用をパッケージした「Alliance Entry Kit」は、その名の通り初期導入ユーザー向けの製品です。「Alliance Entry Kit」の初期導入費用は、EUR22,000、年間 EUR11,800 となっております。この他にも業務規模、業務種別に合わせた多数の製品、オプションのご用意がございます。

注：上記料金には PC サーバーや ADSL の費用及び導入費用、他システムとの連動作業の費用は含まれておりません。

サービス・ビューロー

本邦には現在 3 社のサービスビューローがございます。

- パワーソリューションズ
- 三菱総研 DCS
- JRI ソリューションズ

各社が提供されているサービス、料金体系は異なります。業務内容・規模に合わせたご選択が可能です。

詳細ご希望の場合は、SWIFT にお問い合わせ頂くか、直接上記 3 社にご連絡下さい。

新規導入のお手伝い

現在、新規接続のお手伝いをする専門の担当者がアジア各拠点に配置されております。日本での新規導入に留まらず、海外拠点を含めた導入に関しましても専門担当者が連携し、お手伝いさせていただきます。まずは、スイフト・ジャパンにお問い合わせ下さい。

SMPG ワーキング・グループ C 活動報告

ワーキンググループCでは、従来からグローバルなユーザーグループの会議体である SMPG (Security Market Practice Group) と密接に連携を取ってコーポレートアクションに関連する証券メッセージの標準化を検討しております。

2010年には、定例の年次改正 (Change Request) に関する意見集約の他、SMPG のイニシアティブにより各国ユーザーグループが長らく熟慮を重ねてきた EIG Matrix (Event Interpretation Matrix) の完成に向けた作業を行いました。これは一言で言えば、日本においていろいろなコーポレートアクションをどのような形式で表示するかということイベントタイプごとに一覧表にする作業です。SWIFT スタンドでメッセージの構成が細部まで規定されていないところは、ユーザによって

複数の表示形態が並立していますが、今回の作業ではこれらを網羅的に集積し、それを5月のルクセンブルグにおける SMPG 会議にて報告しました。

今後の方向性は、合理性を保ちながら表示形式に関するコンセンサスを形成しつつこれを集約していくことにあると思いますが、少なくともその素地となるものを作成することができたと考えております。

また、今回の作業で特筆すべき点の一つは、日本において現在コーポレートアクション情報の発信を実際に行っている東京証券取引所、証券保管振替機構からもオブザーバーとして参加を得て、一部この検討過程を見て頂きました。実際にクロスボーダーメッセージの受発信がどのような形式で行われているかという認識を共有して頂くという観点から、意義あるワンステップであったと考えております。

みずほコーポレート銀行 宮下栄三郎

SMPG ワーキング・グループ A 活動報告

2010年4月には、ルクセンブルグで、①米国から DTCC/US-XBRL/SWIFT がコーポレートアクション (CA) 関連処理の自動処理や効率化の向上を目指している状況、②欧州では、欧州評議会が推進している証券関連の法整備、競争確保する Mifid 等規則の策定、Target 2 Securities (T2S) の進捗遅延や LinkUpMarket の利用が意外に伸びている事の説明があり、③アジア関連では、アジア債券市場活性化の最新状況を説明しました。

2010年10月には、アムステルダムにて、① SWIFT から標準化関連書類の検索方法の簡便化や②欧州の T2S は2014年9月に開始が遅れたが、手数料等の具体的な提示を行い、その後の進捗が順調である事の説明があり、③アジア債券市場関連でアジア債券市場フォーラムが設立され、アジアの証券決済の効率化イニシアティブが開始している事の説明をしました。今回より、南アフリカが初参加となり、ブラジル、メキシコ、ポーランド等の新興国の参加が増加して来ています。

主要な検討事項

◆ デリバティブ関連決済の取扱

証券取引所等に上場されている先物と Option の決済を

円滑にする為に、米国での処理をベースにグローバルな市場慣行の処理手続を定めています。

◆ 証券コードの各国市場独特の証券コード利用 (Local Code)

ISIN 利用が原則ですが、今年の ISO20022 の定例修正要望で認められた Local Code の利用は米国では、照査関連のレポートでは ISIN 以外に Local Code を利用する場合や両方のコードを記載するケースが多い。また、日本でもフロントシステムは Local Code でバックオフィスは ISIN コードのシステムを利用していることがあり、両者の利用が認められています。

◆ Allegement の市場慣行の検討

証券決済は原則受渡の相手先と決済指図が一致した後、事務処理を行います。Allegement とは受渡の相手先から決済指図が来ているが、当方が受け取るべき指図が未着であり、その指図を照会する事です。この処理に関するグローバル市場慣行の議論に着手しています。

◆ ISO20022 対応のグローバル市場慣行の策定

証券決済関連ではレポーティングや決済場所等既に18のグローバルな市場慣行が策定済みです。これらは ISO15022 なので、今後の動向を考えながら ISO20022 の処理を追加すべく、見直し作業を行っています。

三菱東京 UFJ 銀行 決済事業部 森 剛敏

PMPG 活動報告

PMPG (Payments Market Practice Group) は国際間の Payment (支払決済) 分野における様々な慣行と現状の問題点の理解に基づき、その時々々の注目分野毎の推奨慣行の公表を通じて、国際標準化を推進している民間の任意団体です。SWIFT 参加メンバーの有識者が任意に集まり、SWIFT というインフラ面の切り口では解決できない支払決済関連の諸問題への解決策を提議しようと 2007 年に活動を開始し、現在、15 行の民間金融機関に SWIFT が事務局機能を提供して活動をしております。実際の活動は年 2 回の会合とほぼ月次の電話会議で、日本からは三菱東京 UFJ 銀行が参加しております。

グループ創設以降の主な活動としましては、まず IBAN (International Bank Account Number) の欧州域内と域外での使用ルールの違いの周知を目的として、PMPG 設立後初めての実務指針を策定しました。その後、マネー・ローンダリング防止対策としての『カバー送金の透明性向上』が世界的な金融監督当局の注目するところとなり、SWIFT では 2009 年 11 月からカバー送金専用の電文 MT202COV が導入されましたが、この動きに呼応して、PMPG では MT202COV 電文の利用に際しての実務指針を策定し、下記の PMPG ホームページに公表致しました。

昨年来、大きなテーマの一つとして取り組んできた文字列の問題に関しましては、本年 7 月に白書として取り纏め、ホームページに公表致しました。世界各地の決済システムにおいて ISO20022/XML の採用が広がってきており、異なるプラットフォーム間での円滑な STP と相互運用性を実現するためには重要なテーマとなっていたものです。

本年 10 月にアムステルダムで行われた SIBOS では、PMPG の活動を紹介する単独のセッションを実施すると共に、拡張送金情報に関するスタンダードフォーラムには PMPG メンバー 2 名がスピーカーとして参画致しました。SIBOS 直後にはメンバー全員が一堂に会しての定例会議が丸一日通して行われ、「外国送金に係る手数料の請求手順」や「拡張送金情報の伝達方法に関する指針」といったテーマに関する討議を行いました。

今後とも益々重要性を増す国際的なペイメントに関する実務面での幅広いテーマにおいて国際標準化を推進して参ります。

PMPG の活動の概要や資料等をご覧いただく際やご要望・ご意見をお寄せいただく際には、<http://www.pmpg.info> が便利です。

三菱東京 UFJ 銀行 石嶋和志

Security Officer の役割と責任

1. Security Officer とは？

SWIFTNet Security Officer (以下 Security Officer と略す) は、ユーザの SWIFTNet セキュリティに対する代表者です。Security Officer は SWIFTNet セキュリティに関する窓口の役割があり、ユーザの電子証明書 (PKI や DN など) の管理責任者です。Security Officer の登録は各ユーザ毎に少なくとも、2 人以上が必須です。

電子証明書の管理

電子証明書 (PKI や DN など) は SWIFTNet へのアクセスに必要不可欠なものです。

例) SWIFTNet Link の接続、FIN・RMA・Accord・TSU 等あらゆるサービスの使用、FIN や RMA 電文の署名など

電子証明書の管理方法には、以下の 2 つがあります。

- **SWIFNet 上で行える管理操作 (online intervention)**
SWIFTNet インターフェース (Alliance Webstation) を使用し、SWIFTNet を介してオンラインで電子証明書を管理します。
- 例) ユーザ電子証明書の作成、権限付与、停止、無効化、復旧
- **Secure Channel ウェブサービスで行える管理操作 (offline intervention)**
Secure Channel ウェブサービスでは、有効化された Secure Code Card を所有している Security Officer が swift.com の Secure Channel を使用して以下の操作を SWIFT にご依頼頂けます。

例) 電子証明書の復旧、電子証明書シークレットファイルの再発行、SWIFTNet Link 電子証明書の復旧

2. Secure Channel とは？

Secure Channel とは、2007年9月24日より開始しました swift.com 上のウェブサービスです。このウェブサービスは、SWIFTNet へ接続するために必要な電子証明書 (PKI や DN など) の復旧作業に必要となるものです。

Secure Channel をご利用頂くための条件

- ① Security Officer の swift.com ユーザ登録。
- ② Secure Code Card の保持と有効化。

Secure Channel が提供するサービス

Secure Channel から、以下の作業を行うことができます。

Security Officer の管理

- ・ 登録された Security Officer の一覧
- ・ Security Officer の住所情報の変更
- ・ Security Officer の追加
- ・ Security Officer の削除
- ・ 二人の Security Officer によるセキュリティーリクエストの承認の設定

Secure Code Card の管理

- ・ Secure Code Card のステータス確認
- ・ Secure Code Card の有効化、および無効化
- ・ Secure Code Card の一時的な無効化、および復旧

電子証明書 (PKI) の管理

- ・ Security Officer 用電子証明書の初期シークレットの発行
- ・ 電子証明書の無効化
- ・ 電子証明書の復旧
- ・ 電子証明書の無効化と廃止
- ・ 電子証明書復旧依頼の取り消し
- ・ 電子証明書 管理権限の第三者への委譲、および委譲の停止

SWIFTNet Link インポートファイルの管理

- ・ 初期 SWIFTNet Link インポートファイルの発行
- ・ SWIFTNet Link インポートファイルの再発行
- ・ SWIFTNet Link インポートファイルのロック解除

レポート

- ・ Secure Channel 上での作業履歴の確認

※一部処理には手数料 500EUR、(緊急時には 1,000EUR)

が発生する場合があります。Secure Channel の機能の詳細や作業手順については、Secure Channel User Guide (Knowledge Base tip 2118161) をご参照下さい。

また、有料処理を避けるため、事前の Security 管理をお願いいたします。

※処理後、パスワード等の取得には URL (<https://secure-channel.swiftnet.sign.swift.com>) へのアクセスが必要となります。SWIFT Net に直接つながっている PC (SNL のホストまたは直接接続の Webstation) の標準のインターネットブラウザ (インターネットエクスプローラー等) を使用していただく必要があります。リンクが開けられるかどうかお試しいただくことをお勧めいたします。

Secure Channel サービスが必要となるケースの一例

SWIFTNet Link の電子証明書の有効期限が切れたために SWIFTNet へ接続できなくなりました。この時、Security Officer が Secure Channel に登録され、有効な Secure Code Card を持っていれば、その場で電子証明書の復旧を依頼することができ、(有料とはなりますが) ビジネスの継続を図れます。しかし、もし登録が未完了の場合、登録のための手続きに数日かかる場合があり、ビジネスに大きな影響を与えてしまう恐れがあります。

Secure Channel へのアクセス方法

Secure Channel ウェブサービスは、SWIFT のホームページ (<http://www.swift.com/>) の「Support」メニューよりアクセスできます。

なお、Secure Channel 登録後、ご本人様確認用の Secure Code Card が Security Officer に送付されます。また、Security Officer の変更時には手続きの一環として、新 Security Officer に Secure Code Card をお送りしております。Secure Code Card を使用するにあたり、Secure Channel ウェブサービス上で有効化の手続きを事前に行って頂く必要があります。

Security Officer の方は必ず **Secure Channel をご利用頂くための条件を満たしているかどうかのご確認をお願いいたします。**

最新の情報は、SWIFT Japan の日本語ホームページ (<http://www.swift.com/jp>) の「サポート」メニューをご参照ください。

SWIFT 講習会

2011 年 1 月 2 月および 2011 年前期 SWIFT 講習会日程予定は下記の通りです。2012 年 3 月アップグレード期限の必須バージョン 7.0 講習 Release Seminar 7.0 for SWIFTNet and Alliance が開催されますので是非ご参加ください。

1 月【1 月 12 日（水）～ 28 日（金）開催予定】@東京大手町 AIG ビル内スイフトジャパン

1 月 12 日（水）	Basics - Your passport to SWIFT
1 月 13 日（木）～ 14 日（金）	Payments and cash management - using FIN messages
1 月 18 日（火）～ 19 日（水）	Securities Settlement and Reconciliation - ISO15022 messages
1 月 20 日（木）	Corporate Actions - ISO15022 messages
1 月 21 日（金）	Operating the Relationship Management Application
1 月 24 日（月）	Introducing FIN
1 月 26 日（水）	Implementing and Operating PKI
1 月 27 日（木）～ 28 日（金）	Trade Services Utility - ISO 20022 messages and flows

2 月【2 月 8 日（火）～ 24 日（木）開催予定】@東京大手町 AIG ビル内スイフトジャパン

2 月 8 日（火）	Basics - Your passport to SWIFT
2 月 9 日（水）～ 10 日（木）	Payments and cash management - using FIN messages
2 月 14 日（月）	Forex and Money Markets - using FIN messages
2 月 22 日（火）～ 23 日（水）	SWIFT Audit Guidelines
2 月 24 日（木）	Release Seminar 7.0 for SWIFTNet and Alliance

4 月【4 月 12 日（火）～ 22 日（金）開催予定

Basics - Your passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages, Forex and Money Markets - using FIN messages, Introducing FIN, Operating the Relationship Management Application

5 月【5 月 10 日（火）～ 24 日（火）開催予定

Basics - Your Passport to SWIFT , Payments and cash management - using FIN messages
Securities Settlement and Reconciliation - ISO 15022 messages, Corporate Actions - ISO 15022 messages, Implementing and Operating PKI

6 月【6 月 8 日（水）～ 28 日（火）開催予定

Basics - Your Passport to SWIFT , Payments and cash management - using FIN messages, Forex and Money Markets - using FIN messages, Operating the Relationship Management Application, Collections and Documentary Credits using FIN messages, Release Seminar 7.0 for SWIFTNet and Alliance

7月【大阪開催予定 7月5日(火)～8日(金)開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages, Operating the Relationship Management Application

7月【7月13日(水)～29日(金)開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Introducing FIN, Implementing and operating PKI, Managing Alliance Access, Managing Alliance Gateway

8月【8月10日(水)～23日(火)開催予定】

Basics - Your Passport to SWIFT, Payments and cash management - using FIN messages, Corporate Actions - ISO 15022 messages, Securities Settlement and Reconciliation - ISO 15022 messages, Operating the Relationship Management Application

* 日本スイフトユーザーグループ (SUG) に加盟されている場合は、社内 SUG ご担当者様より所定の書式でお申込みください。

* SUG に加盟されていない場合は、swift.com ホームページより Training >> Course Schedule >> country Japan を選択し該当講習コースをお申込みください。(オンライン申込みができない場合には tomoko.suruki@swift.com までご連絡ください。ファックス申込み用紙をお送りいたします。

* 2011 年後期講習日程予定は (<http://www.swift.com/jp>) もしくは日本スイフトユーザーグループホームページよりご覧いただけます。またスイフトにて提供してまます講習一覧カタログ(日本語)を swift.com よりダウンロードすることができます。是非ご活用ください。(http://www.swift.com/training/misc/download_the_swift_training_course_catalogue/index.page?)

SWIFT コンサルティング・サービスについて

SWIFT ではユーザー間のエンドツーエンドソリューションの実現の為、SWIFT エキスパートによるコンサルティングサービスを 2010 年より提供しております。主に 4 つの分野、ビジネスコンサルティング、テクニカルコンサルティング、導入コンサルティング、プロジェクトマネージメントコンサルティングを柱として展開しております。また各々のコンサルティングには査定・分析、デザイン、導入、運用管理などの 4 つのフェーズがあり、一括プロジェクト管理しております。ビジネスコンサルティングでは、ISO 20022 スタンダーズ導入、トラフィック分析(過去の通信量から国別、カウンターパーティ別、マーケット別で分析レポート作成)などの業務に直結したサービスについて最適化の分析コンサルティングをしております。テクニカルコンサルティングでは 2012 年第一四半期期限の Release 7.0 導入およびアップグレード計画および導入、2011 年期限の Alliance Connect のアップグレード計画実行など、技術情報および実際の導入までサポートしております。また運用トラブルシューティングのリモートサポートもコンサルティングとして承っております。お客様のご要望に応じて様々なコンサルティングサービスをカスタムメイドしておりますので、詳細情報および料金体系については担当セールスマンまでご連絡ください。

Alliance Access/Entry のバンドアップグレードについて

Alliance Access/Entry (SAA/SAE) のライセンス料金（一時費用）と年間保守料金は、一日の本番 FIN メッセージの平均送受信件数によって決定されます。このバンドは、毎年過去 12 ヶ月の 1 日あたりの平均送受信件数を計算することによって見直され、その結果が現在ご契約のバンドよりも大きい場合は、バンドアップグレードの対象となります。その際は、SAA/SAE のベースライセンス、デスティネーション、全てのオプションの一時費用、年間保守費用が新しいバンドに基づいた料金となります。

<バンドの計算方法>

過去 12 ヶ月のトータル送受信件数（本番メッセージのみ） 過去 12 ヶ月の総営業日数

<お支払いのスケジュール>

バンドアップグレードの対象となった場合は、毎年 10 月に弊社本部よりその旨書面にて事前にご案内いたします。

- ・一時費用の差額……………同年 12 月にご請求、翌年 2 月上旬の自動引き落とし
- ・新しい年間保守費用……………翌年分より適用

翌年 1 月にご請求、翌年 3 月上旬の自動引き落とし

本件についてご不明な点がある場合は、スイフトジャパンの担当営業までご連絡ください。

バンド	一日の平均送受信件数
-1	～ 250 件
0	～ 500 件
1	～ 1,000 件
2	～ 2,000 件
3	～ 5,000 件
4	～ 20,000 件
5	～ 50,000 件
6	～ 100,000 件
7	～ 250,000 件
8	～ 500,000 件
9	500,001 件～

SWIFT の関連情報をインターネットで

SWIFT に関する情報は SWIFT のホームページ、www.swift.com に掲載されています。どうぞご利用下さい。

本冊子のいかなる部分についても一切の権利は SWIFT に属しており、方法の如何を問わず、いかなる目的でも無断での複製又は転載等を行われないうお願い致します。

偶然または意図しない間違い、遺漏等に対する責任は負いません。

全ての記述は関連するユーザーハンドブック等の SWIFT の発行する英語版の該当部分が優先します。

SWIFT Japan Tel: 03-5223-7400 Fax: 03-5223-7439

Customer Support Center Tel: 03-5223-7456 Fax: 03-5223-7460